

## 平成28年度第3回国際化戦略部会 議事概要

日時：平成28年6月29日（水）14:00～15:00

場所：大阪府咲洲庁舎 30階会議室

出席委員：近藤部会長、生駒専門委員、野村専門委員

〔開会〕

〔戦略全体像（事務局案）について〕

○資料1により、事務局から説明

⇒事務局説明に対する委員意見

### ■生駒専門委員

○戦略目標が明確で分かりやすい。ホテルの高い稼働率などポジティブな状況にあるので、うまく戦略に落とし込めれば。

### ■野村専門委員

○戦略目標は明確で基本的な考え方についても賛同できるが、「10の目指すべき都市像」がやや一般論的な表現である印象。当部会では具体的イメージが想起できるよう意識している。

### ■近藤部会長

○昨今の状況からインバウンドに依存することへの危機感があるので、今後インバウンドのみに頼らないという姿勢を持つべき。

### ■生駒専門委員

○インバウンドの将来的な不確定さや現状のチャンスを考慮した仕掛けづくりが必要。アカデミックや食の分野などの大阪の強みの情報発信と、府域全体を巻き込んだネットワークづくりができれば。

### ■野村専門委員

○「爆買い」のような一時的なインバウンドは増減の振れ幅があるが、ナレッジキャピタルを訪れるような高度人材等は他の影響を受けにくい。そうした訪問者を増やすために、訪れる側と受け入れる側双方向の交流が重要であり、インバウンドを語る上ではアウトバウンドの視点も必要。

### ■生駒専門委員

○現在は中小企業も海外ビジネスを展開する時代なので、アウトバウンドは重要。高度外国人材の受入れと併せて持つべき視点。

〔目指すべき都市像及び施策の方向性について〕

○資料2により、事務局から説明

⇒事務局説明に対する委員意見

■野村専門委員

○これまでは産業分野などにおいて、明確な目標や決まった方向性があったため同質性が強みだったが、今は何をやっていくべきか自分分りにくくなっており、そうしたなかでイノベーションを起こすには多様性が新しい発想の源になる。今後大阪が新しい産業や文化の中心となるためには、多様性を重視していく都市であるべき。

■生駒専門委員

○既に大阪が持っている力をうまく多様性都市に活用し、新たな産業に展開できれば。

〔重点取組について〕

■野村専門委員

○重点取組の検討から行動が伴ってくる。どういう取組みを誰がどのようにしていくかが、戦略で一番大事なところ。

■生駒専門委員

○例えば、「大阪全体の都市魅力の発展・進化・発信」では将来のインバウンドをつくるための仕組みとして、サマースクールなどで子供の受入れに力を入れるといったことも考えられるのでは。「三大スポーツイベントを見据えた取組み」では、府域のスポーツ施設を活用し広く定住外国人にも利用してもらおう。「観光客の受入環境整備」は、定住者のファミリーケアを重視し大阪で安心して暮らしてもらうことで、多様な人材の呼び込みにつなげる。「みんなで支える仕組みづくり」では、個々の組織の取組みを連動・共同させるなど。

〔目指すべき都市像のKPIについて〕

■野村専門委員

○事務局案の指標が、目指すべき都市像に必ずしもマッチしているわけではない。ただ、公式の統計かつ定量的な捕捉が可能という条件では難しい。ナレッジキャピタルには多くの人が訪れており、彼らを取り込まないと勿体ないという実感があるので、何らかのかたちで捕捉出来ればとは思うが。

■生駒専門委員

○例えば大阪での国際会議や国際学会の開催状況や、逆に大阪から海外の会議等への参加状況は？

■野村専門委員

○大阪で開催される国際コンペや展示会であるとかイベントも考えられる。

→事務局（府）

○国際会議等に関する指摘については、観光・都市魅力部会で議論している「多様な人が集う観光・MICE 都市」でKPIの設定を検討している。

■近藤部会長

○アウトバウンドへの指摘があったが、「英語教育の充実」という取組み例が示されているので、語学が出来る即ちグローバル人材ではないが、学生の英語の成績を指標に入れても良いのでは。

〔本審における報告について〕

■近藤部会長

○これまで審議してきた内容を取りまとめ、7月20日開催予定の大阪府市都市魅力戦略推進会議において報告する。

〔今後のスケジュールについて〕

■近藤部会長

○次回本審では、各部会の審議内容を報告すると共に戦略案の全体像について審議し、案の取りまとめを行う。次回部会は8月10日開催予定で、重点取組の項目の決定、及び目指すべき都市像のKPIの主要指標の目標値について審議する。

〔閉会〕